

地方創生交付金に係る事業実施結果報告【令和2年度】 三重県玉城町

| No | ① 交付対象事業の名称 | ② 交付金の種類 | ③ 実績額 単位:円 | ④ 事業概要 (交付申請書転載) | ⑤ 本事業における重要業績評価指標 (KPI) | | | | ⑥ R2本事業終了後における実績値 | | ⑦ 実績値を踏まえた事業の今後について | | ⑧ 外部有識者からの評価 | | |
|-----|---|-------------|--|--|----------------------------|--------------------------|-------|------|----------------------|------|------------------------|----------|-----------------|-------------------|---|
| | | | | | 指標 | 指標値 | 単位 | 目標年月 | 実績値 | 事業効果 | 今後の方針 | 今後の方針の理由 | 事業の評価 | 外部有識者からの意見 | |
| 1 | 玉城ファンづくりに向けた関係人口の創出・活用事業 | 推進交付金 | 事業費 22,976,140 (うち交付金) 11,488,070 | 本事業では、町外に流出した後も、当町に興味・関心を持ち、当町の成長・発展に寄与する取り組み・活動を行う人材数(関係人口)を増加することを目的とし、そもそも町外に流出した人材にどのような情報提供・イベント参加を促すことが有効かを検討・検証するとともに、それら活動を通じて創出された関係人口の活用方策の検討や活用プロジェクトの試行実施を行う。また、それら関係人口の創出・活用に係る各種プロジェクトの自走化に向けて、民間事業者等による推進体制の構築を図る。 | 指標① | 関係人口 | 200 | 人 | R5年3月 | 0 | 地方創生に効果があった | 事業の継続 | 引き続き事業を展開していく | 総合戦略のKPI達成に有効であった | 複数年事業の為、ふるさと納税額以外のKPIはまだ計測できていないが、関係人口活用ニーズの調査、活用方策の検討等着実に進められている。関係人口活用については、ターゲットを具体的に把握する、町出身者等々の町との関わりが深い人へもアクションを起こす等、様々な方策を検討されたい。来年度以降、KPIが達成できるよう、引き続き、事業を継続されたい。 |
| 指標② | 関係人口を活用したプロジェクト実施件数 | 4 | 件 | R5年3月 | 0 | | | | | | | | | | |
| 指標③ | ふるさと納税額 | 100,000 | 千円 | R5年3月 | 113,209 | | | | | | | | | | |
| 指標④ | | | | | | | | | | | | | | | |
| 指標⑤ | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 玉城町農産物の6次産業化推進及び地域商社設立事業 | 推進交付金 | 事業費 19,965,000 (うち交付金) 9,982,500 | 構造的な課題解決を図るために、市場開拓の司令塔の役割を果たす地域商社の機能を確立し、地域の農産物に対するマーケティングを継続的に実施し、町が一体となって玉城町農産物の6次産業化・ブランド化・情報発信・販路開拓を行う。 | 指標① | 地域商社の売上額(年間) | 6,000 | 千円 | R5年3月 | 0 | 地方創生に効果があった | 事業の継続 | 引き続き事業を展開していく | 総合戦略のKPI達成に有効であった | 複数年事業の為、KPIはまだ計測できていないが、地域商社の設立等着実に進められている。イチゴをベースに地域商社が設立されたが、一農家の6次化との違いが分かりづらくなっている。段階的にイチゴ以外に拡大するものと考え、位置づけ等整理をされたい。来年度以降、KPIが達成できるよう、引き続き、事業を継続されたい。 |
| 指標② | 地域商社の活動を通じた新商品開発数 | 2 | 品目 | R5年3月 | 0 | | | | | | | | | | |
| 指標③ | 地域商社の活動を通じた新規就農者数 | 7 | 人 | R5年3月 | 0 | | | | | | | | | | |
| 指標④ | | | | | | | | | | | | | | | |
| 指標⑤ | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | ふらっと寄れる・集まれる。みんなで取り組む・学べる「町のよろず相談コミュニティ」事業～町と地域住民のHUB！ 就労・社会参加促進＆得意の交換(学ぶ・教える)で年齢、属性に関わらず活躍し続けられるコミュニティを構築～ | 推進交付金 | 事業費 24,918,190 (うち交付金) 12,459,095 | ●本事業では、「ふらっと寄れる・集まれる。みんなで取り組む・学べる「町のよろず相談コミュニティ」の運営する地域のコミュニティ拠点として多世代が交流できる場所の構築を行う。個人と自治体・企業それぞれの現状とニーズを把握し、時間の制限や体力・能力に不安を持つシニア・ママ等が仕事や社会活動において活躍できる様に業務分解を行い、短時間でもできる仕事を創出する。企業の人手不足解消、働き方改革推進生産性向上等にも寄与できる。また町・団体の外注仕事を請負業務として発掘・マッチングするだけでなく、未就業者のOJTとしても活用。スキルアップの為の教育コンテンツも作成し、シニア・ママ等の就業可能性を拡大する。利用者個人は支援をうけるだけでなく、各自の得意を棚卸し、講師役としても活躍できる相互扶助の仕組みを目指す。先端技能、ITスキルなどは当初、外部講師で推進することになるが、利用者が知識を取得し業務遂行を繰り返すことで、徐々に講師へと成長させ、コミュニティ内で持続可能な仕組みづくりを構築する。また、仕事以外の趣味や、楽しみコンテンツも利用者に提供してもらえらる機会をつくり、就業以外の形で地域貢献実感、やりがい創出する。 ●更に、ママからは就労以外の相談(例えば、子育て関連)も受けられる機能や、ママ以外の様々な属性の方にも住民参加型イベントなどを実施し社会参加のきっかけを提供する。当拠点を多世代が交流できる地域のコミュニティ拠点として整備する。 | 指標① | ママ・シニアの登録者数・仕事や社会活動の実施者数 | 80 | 人 | R5年3月 | 13 | 地方創生に効果があった | 事業の継続 | 引き続き事業を展開していく | 総合戦略のKPI達成に有効であった | 複数年事業の為、KPIはまだ計測できていないが、大変良い取組であり、コロナ禍の影響があると考えるが、さらなる周知、PRを行いながら、継続されたい。来年度以降、KPIが達成できるよう、引き続き、事業を継続されたい。 |
| 指標② | 町・企業の業務を分解して創出した仕事・社会参加活動数 | 60 | 件 | R5年3月 | 0 | | | | | | | | | | |
| 指標③ | 学び(教育)コンテンツ講座受講人数 | 90 | 人 | R5年3月 | 0 | | | | | | | | | | |
| 指標④ | | | | | | | | | | | | | | | |
| 指標⑤ | | | | | | | | | | | | | | | |